

# 家庭教育通信

10歳からの子育て  
～思春期の入り口に立つわが子～ 3

第51号 平成28年9月11日発行

## 「女の子と男の子」

わが子は10歳の女の子。夏休み中に初潮を迎えた。自分よりも数年早い。親として心の準備は全くできていないが。

小学校高学年から中学校にかけて、子どもの身体面での発達が目立って著しい時期にあります。手足の短い子ども体型は、男子は肩幅があるがっしりした体型へ、女子は丸みのあるふっくらした体型へと移行します。

この時期、身体の変化は徐々に進みますが、第二性徴に伴う初潮や精通は、ある日突然に出現するため、子どもたちのショックは相当なものです。

現在、女子の初潮の平均年齢は12歳3～4か月、男子の精通は中学1年で60%が経験しています。しかしこれらの数値はあくまで目安であり、たとえば1～2割の女子は、小学校3～4年生で初潮を迎えます。

早熟な傾向にありますが、精通や初潮を迎えた子どもが、その日を境に急に大人になるということは勿論なく、こどもの変化を私たち大人は丁寧に見守ることが必要です。

なぜなら、子ども達は、驚きや恥ずかしさを抱えながら、変化を受け入れていかなくてはならないからです。

子どもの第二性徴期に、親はどのように接するとよいのでしょうか。

たとえば第二性徴でみられる精通や初潮に関しては、子どもが安心できるように話をしてあげることが必要です。とはいえ、反抗期を迎えた子どもとじっくり話すことが難しかったり、説明に悩む保護者もいらっしゃるでしょう。

そのようなときは、保健室の先生に助言を求めたり、子どもに説明してもらえないか相談されると良いでしょう。また、最近では性教育が進み、子ども向けの本やマンガが出版されています。読みやすい本をそっと渡してあげるのも良いでしょう。

自分の身体の変化が他の友達のそれと比べて遅くはないか、異性にどう見られているのかなど、この時期の子どもはとてもデリケートに自分のことを考えます。

そういった心境にあるこの時期を温かく見守っていけるといいですね。

庶務課社会教育担当

TEL (3647) 9676